

日本カフェポッド協会が発足

ポッドコーヒー市場の健全な発展と普及を目指して「日本カフェポッド協会(JCAP)」が昨年11月に発足した。現在2種類あるポッドの規格(エスプレッソ専用/レギュラーコーヒー

マシン専用)別に表示マークを策定・管理し、啓蒙活動のために情報発信を行うことになった。

2種類規格別の表示マーク

協会認定マーク
レギュラーコーヒーマシン専用
カフェポッド(直径60mm)
エスプレッソマシン専用
カフェポッド(直径44mm)



ポッド(POD)とは豆の葉(きや)の意味。カフェポッドは、1杯分のレギュラーコーヒー(粉)を、円形の濾過紙に個包装・窒素充填したもので、数年前に欧州市場で爆発的にヒットし、米国や日本でも有望市場として年々取扱業者が増加している。ポッドの利点は、①誰でも簡単に美味しく淹れられる②色々な味が簡単に楽しめる③個別包装で鮮度が保たれ、味が劣化しにくい④後片付けが簡単⑤飲む分だけ淹れるので無駄が少ない――など。

ポッド製品の規格は大別してエスプレッソ用(直径約44mm)とレギュラーコーヒー用(同60mm)がある。だが、この2種類の規格に対応した抽出機には互換性

がないため、消費者が購入する際、判断に迷うケースが増え、これを未然に防ぐため、規格の判別が容易な

表示マークを策定・使用することで混乱をなくする必要に迫られていた。協会はポッドメーカー、マシンメーカー、販売者の計2社で設立、現在では32社に増えている。また、役員構成は発足の

音頭をつとめた丸が会長(佐藤隆三 事務取締役)に就任、副会長キョーヒョー、理事マシニングラフト、バイスタイル/メロタジャパン/大和屋、会計シエタィ。活動目的は「コーヒーをはじめとする飲料の抽出における新たな方式である「カフェポッド」に関し、その利点を啓蒙し、また

規格に関する情報を集約・発信することで「カフェポッド」市場の健全な発展と普及を目指すための活動(①規格表示規定の策定・発信および規格表示の管理②啓蒙活動③関係業界内での情報交換)を行う。会員(1月9日現在)は次の通り。シエタィ、マシニングラフト、ウエシマコーヒーフーズ、小山珈琲、カレント、キョーヒョー、キヤメル珈琲、キャランサライ、共和食品、サテーフーズ、サンエー、樺井

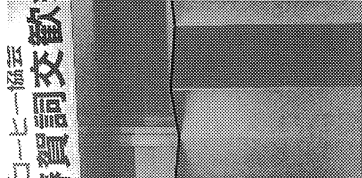
日本書籍シエタィ、シーシーエスコピー、セガフレッド・ザネット、エスプレッソ・ワールドワイドジャパン、ダートコーヒ、大作商事、デバイススタイルホールディングス、メロタジャパン、トリーフードサービス、日本サエコ、ピーエスエ、フレッシュロースター珈琲問屋、マツモトコーヒー、メロタジャパン、モンテ物産、大和屋、ワタル、シアンドロ、アートコーヒ、アラブ珈琲、カフェ・ロックス、ジャヤント商会。

評価されるコーヒーの効能

東西会場に計800名

全日本コーヒー協会主催 新春賀詞交歓会開く

全日本コーヒー協会(大田敬三会長)主催の「平成21年新春賀詞交歓会」が1月7日に大阪(大阪ビルトホテル)、8日に東京(第一ホテル)で開催された。勝副副会長が行った。大田会長は「日本経済は内需主導型への転換期を迎えている。この



平成21年新春賀詞交歓会
東京会場に挨拶に立った
全日本コーヒー協会の大田敬三会長

に向けて中長期的視点でクリエイティブな発想を持たなければならぬ。希望は活力を生み、明日へと響いてくれるものだ。壬支の丑の如く力強く一歩一歩即ち奮闘と実行力を結集・連携して百年に一度の難関を乗り越えて参りたい。